

令和 2 (2020)年度 教育センター運営委員会議事録（概要）

○開催日時：令和 3(2021)年 2 月 5 日（金）午前 9 時 30 分から午前 11 時 20 分

○出席者：小野寺正幸委員、小林秋則委員、早津康浩委員、小菅晴美委員、堀井重人委員、杉山敏委員、中尾慶一委員、庭山敦委員、小林多佳子委員、石田夕美子委員、田邊修一委員、山田信行委員 以上 12 名

○事務局：近藤柏崎市教育長、堀刈羽村教育長、山田所長、千原副所長、田村情報教育主事、近藤協力員、岸専任所員、藤巻課長代理 以上 8 名
計 20 名

（司会進行：藤巻課長代理）

I 開会のあいさつ

近藤柏崎市教育長挨拶

今年度、小学校では学習指導要領の全面实施となり、中学校では来年度実施となる。教育センターを中心にして教職員の研修を進めていきたい。

最終的には、子どもたちの学力向上、日々の生活に生かせるよう生かしていった欲しいと願う。

GIGA スクール構想に伴い、柏崎市としてはこれを機会に、総合学習ソフトの導入を考えている。これまでバラバラだった AI ドリル、学力向上テスト、学校、家庭での学習といったものを統合的にまとめていく。そういった意味でも、教育センターが役目を果たしていった欲しいと考える。

堀刈羽村教育長挨拶

研修の意味は、教員の資質向上があげられる。それが最終的には子どもたちの生きる力、コミュニケーション能力の向上、これから難しい時代を生き抜く子どもたちの育成のためにつながっていると考ええる。

個人的には対面授業が一番と考える。コミュニケーション能力がアップすれば、いじめもいろいろな問題も大いに良い成果がみられると考える。

ICT 教育が始まるが、技術の十分な活用と人間対人間のコミュニケーションを並行して生かしていった欲しい。

II 自己紹介

各委員、事務局の自己紹介。

(司会進行：堀井委員長)

Ⅲ 報告・協議

1 今年度の事業運営及び実績報告について

(1) 教育研究班（教職員研修）

千原（副）：今年度の成果。

1月22日現在、102講座実施、1554人の受講者を得ることができた。新型コロナの関係で、休校となり外に出ることが難しくなり、元年度の3266人と比べると人数は半減。講座数は昨年度94講座から増加したが、参加人数は少なくなっている。それは、会場の関係で人数を絞ったためである。年度最初のころは研修を中止にしたこともあったが、遠隔型研修のやり方を模索し、外部講師とも遠隔型研修で実施することができるようになった。

新学習指導要領を踏まえた研修、GIGAスクール構想に向けた研修等も進め、役立つような研修にしてきた。

学校併設ということで、柏崎小学校と授業づくりという点で一緒に進めてきた。今までやったことのない新しいスタイルの研修、センター職員が一週間かけて柏崎小学校の授業の様子を撮影してそれを視聴する研修も行った。

また、算数数学と学級経営という分野で、集合研修ではなく指導主事が出かけて行って支援するマンツーマンゼミというものを新設した。一年間を通じて学校を複数回訪れることで、その先生の技能をアップさせることができたと思われる。

そのほか、自殺、食物アレルギー、特別支援教育、防災安全教育等、今日的な課題の解決につながる研修を進めてきた。

これまでアンケートは手書きだったものを、校務支援システムのアンケートシステムを利用したことで、Zoomでの研修でもアンケートを回収することができ、受講者のニーズを早く的確に把握することができた。

今後の課題として、GIGAスクール構想に不安を抱えている教職員がいることは確かであるので、端末が有効活用できるように研修を進めていきたい。

他団体との連携、併設型を生かした研修も進めていきたい。

直接集合研修か、遠隔型研修か、アンケートの結果を生かし見極めていくことも課題と考える。

教育研究班（情報教育）

田村（情）：柏崎市学校教育の教育ネットワークの運営支援、教育の情報化全般、先生方のPCの活用に関する研修、児童生徒へのモラル指導、校務支援システムのサポートなどを行っている。今年は、GIGAスクール構想の関連で、市が用意したものを子どもが家庭に持ち帰るという動きになるため、セキュリテ

ィポリシーの修正等を行った。また今年度より、新しい校務支援システムに変わったため、このサポートが大変であった。研修会を開きたかったが、新型コロナのため開くことができず、厳しい対応が迫られた一年であった。メール配信のシステムも新しく変わった。学校ホームページの管理システムも切り替え中である。今後は切り替えのサポートも出てくる。

新型コロナウイルスの影響で長期休みになり子どもたちのメディア時間が増えているということで、児童には、情報モラル、ゲーム、スマホの使い過ぎにならないような指導、保護者には講演会等の要請が例年より多かった。

実績を見ると研修の回数は減っているが、対応すべきことは増えてきている。

GIGA スクールでは 5000 台の端末が増えることになる。教育センターの人員でこの 5000 台を管理するという事は難しい。体制も含めやり方等考えていかなければならないと思う。

（２）教育研究班（科学技術教育センター）

岸（専）：研修講座－今年度の実績

成果として中止講座 6 講座にとどまった。よく頑張ったと言える。

参加者からは、研修内容が分かりやすい 83%、教材の提案は妥当性があるか 86%、指導に生かしたいか 89%という評価が得られた。参加者の満足度は高いと思われる。

中止した 6 講座は、例年、参加者の多い研修であり、そのため参加人数が減ったと分析している。

今後の課題としては、今の状況に合致した研修、また、参加者が参加したいと思う講座を行っていききたい。タブレットの活用を取り入れた研修、授業力をつけるための授業公開、参加者が希望する理科教材、予備実験、自分の学校の器具を実際に使った研修、短時間（16 時から 45 分間）の研修、この 5 点でやっていきたい。

また、研修をビデオ化し、著作権のない遠隔授業教材の蓄積も実施していると考えている。

学校等の要請研修、今年度は 1377 名の参加であった。新型コロナウイルスの関係で昨年度より減った。科学研究のすすめ等に関する要請が減ったことが課題と考える。科学研究をすすめるために、保護者を巻き込んだ科学教育を実施していく。広報についても、これまで理科主任等にしかしていないが、検討していきたい。

科学教育振興事業ということで、科学研究作品展を実施している。今年度は 62 点の出品数。夏休みが短期間だったのが大いに影響していると考えている。

191 点から 62 点に減ってしまったが、中身は優れたものであった。科学発表数については例年通り。平成 28 年以前であると 40～50 件の参加があったが、時代とともに減少している。課題である。

科学の祭典は中止とし、Web で科学のえんま市として実施。2 週間の公開で閲覧回数 2,750 回。結構な数の方から閲覧していただけた。

今後は、科学作品展等への支援をとして、科学研究指導者の研修会を実施していきたいと思う。

科学教育支援事業として、休校でできなかったものも、博物館と連携して、実施日を変えて実施できた。

地域との連携として、科学のえんま市、放射線教育など行った。鯖石川、鵜川で、川の学習を行った際、コミセン職員の高齢化もあり、その河原の草刈りがされていなかった。県にもお願いしたがしてもらえず、教育センターが自力で草刈りをした。今後は、地域と連携を図り、人的配置、安全面確保を考えながら、川の整備を検討したい。

—質疑—

- 委員長 : 教育研究班（教職員研修）へのご意見、質問は。
- A 委員 : GIGA スクール構想について。小学校の授業に一人一人に端末を貸し出すのか。
- 事務局 : 柏崎市は小 3～中 3 まで貸し出す。今現在納入中、2 月末には揃う。準備が整い次第使用する。
- A 委員 : 貸与か。
- 事務局 : 貸与である。
- A 委員 : 卒業時に返却するのか。
- 事務局 : 卒業時に返却する。
- A 委員 : バッテリーなど長期間になったときに発生する端末の不具合にはどう対応するのか。
- 事務局 : 5、6 年は耐え得ると聞いている。導入時検討したが、1 年間は保証がある。その先は保険に入るよりは新しく買った方が安いということで、1 年超えて故障した場合は、補充という方法をとる。5、6 年たったときどうするかはまだ決まっていない。今回は国、県の補助金を使い購入した。5、6 年先に補助金が出るのか分からない。要望は出していきたい。柏崎市だけでなく要望している動きがある。
- A 委員 : 今いる生徒には補助金を使って配備。新しい学年になった生徒にも国が補助してくれるのか。
- 事務局 : 今回の整備は令和元年度のある一定日の児童生徒数の 2/3 だけ国が補助

してくれるということであった。その先については未定である。

事務局： 補足。今年の卒業生分を次の新 1 年生が使うことになる。使いまわす形である。ただ 5 年たって、その端末が使えるかどうかはその時になって判断せざるを得ない。その先まで見越した補助金が出ているわけではなく、その時点での対応となる。

刈羽村は小 1～中 3 まで。既に配付も終わっている。

学校での運用については、各教室、各廊下にキャビネットを置いて、輪番で夜間充電を行う仕組みになっている。

B 委員： GIGA スクール構想の中で不安を持っている先生がいるとのことだが、どのような不安を持っているのか。先生方が不安だと保護者も不安になる。先生方の不安を払しょくしていただきたい。

事務局： この GIGA スクール構想は数年かけて実施する計画であったが、新型コロナウイルスのために急加速したところがあって、研修も追いついていない。先生方も研修が十分でなく、どの授業でどんなふうに使っていったらいいのかイメージが持てていない。それについては、不安を取り除けるような研修を進めていきたい。今一番苦労しているのは、端末が入って開いてすぐ使えるというものではなく、多数の設定作業があることである。また、使ったことのないソフトを使うことになる。そこで、導入するソフトの使い方について 4 月までの間に研修を進めていく。次週には遠隔研修で導入ソフトの使い方研修を行う。100 名の先生が受講される。

B 委員： 端末を入れることが目的ではなく、端末を使って子どもたちがどのような学習をしてよりよい学びを得ることができるかが目的となる。そこを落とし込んで突き詰めていって欲しい。

事務局： 補足。端末を持ち帰るということは次年度からになる。その際には、ルール、約束ごとを学校や家庭に願います。単純に使うだけでなく、モラルを守って使えることを意識して展開していきたい。

委員長： 科学技術教育センターへのご意見、ご質問は。

C 委員： 小学校の方では今年度からプログラミング教育が始まり、理科センターからプログラミング教材を各校順番で貸していただいた。パソコンで条件付けたプログラムで LED やファンが動くという教材。自分たちがプログラムしたものを実感できる大変良い教材である。プログラミングに興味をもち、将来このような職業についてみたいと思った児童がいると思う。今後も、授業でやりやすいものをどんどん提供して欲しい。

委員長： 全体通してご意見、ご質問は。

A 委員 : 理科実験は実際行うことが大切である。コロナ禍の状況ではあるが、積極的に対面で実施して欲しい。

委員長 : 今年度の事業運営及び実績報告について承認いただけるか。

委員一同 : (承認の拍手)

2 令和3年度の事業概要

千原(副) : 今年度の課題と成果を踏まえ、来年度の研修を計画していきたい。研修で学んだことをすぐに授業に生かすことができるよう授業づくりや授業改善を中核にした研修を実施したいと考える。GIGA スクール構想の端末が有効に活用されるような研修を計画したい。対面、オンラインを融合させ多くの教職員が受講できるよう工夫していきたい。ICT 機器を使用するとなるとモラル指導が重要。中学生メディア宣言を活かして指導していきたい。

近藤(協) : タブレット端末を活用のツールとして用いて、理科教材や授業のビデオ化を進めることを通して、教員の資質向上、子どもたちの学力向上につながる研修を組みたい。他教育団体との協力事業、主に上越地区と共催した研修を行ってきたい。学校の要請にもこたえていきたい。また、博物館等と協力して地域との連携事業を行ってきたい。

委員長 : 質問はあるか。

A 委員 : ネットワークは積極的に使っていくのか。

事務局 : ネットワークは積極的に使う方向での活用を進めていく。環境のないご家庭にはモバイルルーターを貸出することを検討している。

A 委員 : 学校の中で使用する際、トラフィックが上がってしまわないか。

事務局 : 運用整備に関する補助金が得られていないため、活用しながら発生したトラブルに対応しながら環境を整えていくようになる。

委員長 : 学校併設型の研修について聞かせて欲しい。今年度、柏崎小学校で一週間算数の授業をビデオで撮りため、数学的な見方、考え方という視点から編集したものをもとに協議会を行う研修をしていただいたが、利点を活かしたというのは、こういうことを言っているのか。

事務局 : 教育センターは、目の前に子どもがいないため、どのように授業で展開していくか分からないところがあるが、併設型であることで、こちらの考えていること、学校側が考えていることの情報交換ができています。また教材が子どもにとってどのような効果があるのか、子どもたちがどのような反応をするのかを確認できる。そして、それを研修にすることで、他の学校の先生方と共有できると考えています。

委員長 : 利点を市全体で共有できるということがよく分かった。
委員長 : 令和３年度事業概要に承認いただけるか。
委員一同 : (承認の拍手)
委員長 : これで退任させていただく。

(司会進行：藤巻課長代理)

Ⅳ情報交換

A 委員 : 柏崎市内のいじめ等の状況は。
事務局 : いじめの認知数は小学校が十数件、中学校は数件である。ただ、実際に起きている数が反映しているかどうかという見方で、鋭敏な感覚で学校の先生方には対応してもらっている。数字的にはここ数年横ばいである。

C 委員 : GIGA スクール構想で、教える先生と教わる子どもの立場が変わるのかと思う。タブレットは子どもたちに自由闊達に利用させることが普及の第一歩だと考える。数年前の OECD の PISA で、日本の子どもたちの学力が下がっていた。その原因は ICT 問題に日本の子どもたちが使い慣れていなかったためであったと言われている。文部科学省も２年後にはデジタル教科書を普及すると言っている。ペーパーで行っていたものをデジタル化し、先生と子どもたちがデータでやり取りするようになれば、先生方の働き方改革にもつながっていくのではないかと考える。

D 委員 : 支援の必要なお子さんが、ゲームに依存する傾向が強い。特に特性のあるお子さんに対し、メディアの使い方の指導を強化していく必要があると考える。

E 委員 : 親御さんを通して２、３歳の子どもたちは、日常的にパソコンやスマホ等に触れる機会が多くなってきていると感じる。よって保育園では実体験ができる活動を多く取り入れている。

F 委員 : 少年の非行、検挙の件数は減少しているが、家の中でのネットトラブルが深刻化しているということである。あくまでもタブレットはツールであると考え。必要なとき、適切な使い方ですべて普及していくことを望む。

G 委員 : 教育センターは、学校研との共催事業をやっている。他市にはないと思われる。今後とも連携して行っていただきたい。今後、校内研修おうえんプロジェクトやマンツーマンで行っている研修等で、若手教員の育成にも力をいれていただきたい。

H 委員 : 養護教諭として新型コロナウイルスに追われた一年であった。管理職と相談しながらやってきた。これからまだ続くと思うが引き続き相談しながらやっていきたい。

B 委員 : 学校現場で先生方が子どもたちの教育に熱心に取り組んでくださってい

るが、我々親が、大人としての見本となっていないことを危惧している。市 P 連としては大人に対してのモラル啓発をさらに発信していきたい。

I 委員 : 子どもが目を輝かしていける教育になるよう願う。学校現場以外での活動で、地域の宝を利用いただければと思う。

事務局 : 教育センターが研修を行うのは手段に過ぎなくて、先生方、保護者、地域の方が自身で資質向上を高められるような人を育てていかなければならないと感じた。

V 閉会のあいさつ

杉山副委員長

この一年間、教育センター、指導主事の方々からは、学校現場に何度も来ていただき、指導、支援していただいた。それが柏崎刈羽の教育を支えていることにつながっていると実感している。この感染症禍になり、これまで特別活動で行っていた、えんま市、ぎおんまつり、親善陸上などから、子どもたちは大きな学びを得ていることが分かった。この学びは子どもたちの将来に影響すると考えている。今後は、学校現場、教育センター、保育園、子育て支援課、市 P 連、地域らがさらに連携し、感染症対策に慎重に対応しながら、子どもの学びを保証していきたいと考える。